

浦里
時次郎

明鳥裕

里

著
信
入
者



國	語
4L	
95	
1	

あひさひとき
十日あると一
つと

一切改

ひ式ハた

ちま

扶神 中

給失

し





序



稗史小說之為著述也。各搜索

新奇。走思於時好。以綴戲謔妄

誕。終實其事矣。於是

南仙笑主人
瀧亭主人

亦綴書一篇。既晚稿示於余。余

披而閱之。乃卷中不載彼新奇

妄ヲ。而盡ニス人情世態ヲ也。其可レ愛

可レ惡喜怒哀樂壹ス是ニ皆ニ以ス天下之

福レ善ニ禍レ惡ニ勸ニ孝悌義烈ヲ懲ス驕奢

淫レ佚ラ矣。雖モ然ト天道ハ是歟。非歟。有テ

孝悌義烈。而艱レ善ニ其身ヲ。驕奢淫

佚シテ而榮レ花ニ其事ヲ者。於ニ其勸懲一如

之何。嗚呼。不知陰陽消長。歟。陽德日長。

陰惡日消者。天之道也。故孝悌義烈之。

於艱苦。先戒慎之。終全其眉壽。萬禍。驕。

奢淫佚之。於榮華。既僥倖。罔之。卒伏其。

天禍。个刑於。是勸懲可觀而已。

干時文政四辛巳陽春

發端

明烏夢之

泡雪ノ圖





三木堂反

寛政文化の御代ごよ小幡行おこたなゆき南仙笑なんせんせう楚満人しつまんじんが著あつたる草くさ

紙しのうらぶの中なかに復かへ雙言じゆうげんの物語ものがたりを前後ぜんごの集あつまりのころを

あも此こゝに或ある初會はつごうとたなりし。三組さんぐみ不皿ふでん乃すなは因書いんしよをしりて世よ

にこそなももされしも十有じゆう余年ねんの昔むかしとなりしも楮木くわんぼにたたたり

露つゆと清きよはそ持も濡ぬるものなもも齊せいのた柄えにた携たづなへるはな本ほんをしりて

王おう質しつあるもぬ其その以後いごにま狂訓亭きやうくんてい為なるも永えい伝でん二に世よ。南仙笑なんせんせう

楚満人しつまんじんとなりしも改あらとなりしも我われ作しるも花はな乃すなはち

おの大将たいしやう只ただ一ひと夜よ。瓦燈わとうのなをしりてなりしも。明鳥あきとり後ご乃すなはち

正夢と題して鶴賀賀若狭が正本に原稿滑靴なるもの

新肉乃下節獨吟の素語也。世話狂言と序閑を合せ

よと友人のものとありは恋と此幕の口上張のさあめり

琴通舎主人英賀誌

尾上ふねは澤鶴岡の山園
伊太公の山は滑川の川岸

哥祭文藝字草履打

全五冊

右近日

斐市

瀧亭主人鯉丈著

歌川國直画

世に流行し新内節と其侯のちひて客端不世話場の幕成明がらの
 時次郎の隠家への情の糸は綾瀬川流にみどりうが禿の名も今八お松と
 幼名と呼ぶ堤の三谷舟のつとく廓の傾城請状あつ草紙の花形村小素入
 うる表向も其浦里が愁歎の夢の泡雪解初一窓不操と立結の娘かこ
 ぎの於照が貞女神お誓良掛守八千兼家乃重寶菅家の一軸利益と
 祈る心根お里も同ぐ木下川薬師百度矣るの數取不ちるのめ乃字此
 額小袖昔鹿子に継ぐ互の形身と移つと看もこの床の中老梅の谷
 この御殿場小おんどの御側あつと茶の間おも涙くままる愁歎場は
 居と浄瑠璃新内と取合つ物活かんかばらひも片言も捨くようかに
 御評判只け自負の一声が雀賀豊名賀富士松ぞ豊島と名跡
 國大まや珍家縁不はめまき此繪草紙と纏るゆめのは

文政四年辛巳の春



夫

太

鶴賀賀若杖掾

鶴賀賀新内

鶴賀賀鶴吉

調口

作者瀧亭了鯉次
海書道
彫工加藤利八
画入歌川國直

春日屋時次郎
山名屋浦里

明鳥後正曲

あけうらととのらのまことゆめ

改字 上

よみか

製本所

あひかりこと

青村堂藏

明烏後正夢壹れ卷

紫 一 画

榮枯盛衰有為轉變まゝのよみれ花はなハはりの夢ゆめとよ世よ乃

諺ことわざのよむらるや。彼時あつとき次郎浦里しげらハ風かぜとあもそあり。其日そのひのよも一

夜二夜よふふたよふのよ拖ひれちやものよ。生なりつて高とあのやま今いまハたがひふも也なり

はあくらうをとおそび出いてありし心こころがあらうふ死ぬれ旅たびとかくえふは

かくおひ極すも。悉しつぱみぎうらうづつといふのて虫むしがあらうまじう東の間も

ちるれハ中らぎどおろくくと。きまう心のいざらら。二タ人る兒身ととならるあららバ。難これをたよりして生ま長し。いりる憂目小達りやせんと。心ちひ廻ませバいともたをた。捨ま小行身とのうろろ髪がひくまひまも早ち成せ川がいまぬ。どおらくらぬ。ニッられら今いま捨兼まて。花形村はながたむらのあ人ひとをたより。幸さい小前こまへの明家あけやをかり。志ま志まとららくら思おもひぬぬし。天あま高地こうち厚あも身みととかかららははくくも踏ふぬ日ひ伝でんの身み。曇くもリりががららるる春はるの夜よ乃な月つきぞぞかかききととむむししととああふふ内うちのの後ごのの

寝て居らまはしよまて 沓ハアそりやアこまうりこめめの目の

煩ふら此村の可菴ふかくるみせ入片く悪くハ両

方へうり。両方うりくハ大夫目くらふまらハ請合

と。問こまどがうりのゆくそ口むりきり居り大あざら。

時小姉さんこーやアちりともまん小来中ーの里

フムむしーんこくそりや何そ入沓へー如女もかくそ

何をこく見る返りの此泥藏。色と氣の有う答も

たのむしーんとりまきこまの度た右を合すと四本

の脂。版いびりふとんせらの物まねのまね似いハいづこむこ心ことをられ

り。関まてま里と胸ち裏とキと云とけせん中も歯乃ね根ねと

あらまじつこらみくあらひ指かをこんて泥はあのえん

何まもいらんのまハお人たらと金なんくイヤああへん

こらもあ人ド目め形な小あ遠をふととまらと納ま戸どへか押とるな

二ま枚が屏ぶ風ぶをいのけて。ヲイ且ぞ那ね森ねてう起あてう知し

ね人が。振ち子こハア子こふり又まり。此こ出でつくらてうけ夏なと

は合つらく。アンと毎のけざぬ。就し就し知ち者しハ皆あらまじつ。

金の神かみももしし見みたたままおおされれ。移うつ先まへ々々鬼き門かど除のぞけるやらう

ひひろろううびびのの票ひら亭たんららめめひひははいいささがが業わざ傳でん神かみ明あききの

方かたとと見みいいささぐぐ頼たのもも長ながくくとと夫おとのの中なかささととめめへへはは命いのちのの由よしらら

ままでで。拾ひろ両りやう斗とかかりり山さん来きああ中ちゆう一いつ之し時ときそれそれハハ毒どくのの毒どくしし

みみらら。金かねのの意い心しんとと夫おとのの眼め鏡がまか遠とほびびのの牙はらら鬼おにもも

角かくもも。今いまらら見み入いききくくはは深ふかくく右みぎ今いま自みづかハハ満みちち々々書かしてしてここ。

ああままのの烟けむりののたたららききももささとと又まためめ密ひそくく眼めのの煩わづらひひ

今いま路ぢもも茶ちや座ざののりりららふふとと茶ちや小こ治ぢ一いつがが死し底そこ

是^と戸^とま^とり^とく^とト^と後^と入^とら^との^と里^と時^と彼^と所^とふ^とた^とぬ^とり^と言^とふ^とこ

ぐ^とら^とん^とて^と泥^と虎^との^と律^とを^と不^とそ^と引^と返^とせ^とば^とふ^とも^とあ^とく

そこ^と人^と佛^と極^とグ^と一^と。我^とが^とぬ^とひ^との^と母^との^と毛^との^とう^とれ

か^とく^とを^と是^と非^とま^とれ^と泥^と虎^とハ^と大^と多^とふ^とチ^とイ^とタ^とく^とく^と

ぶ^とれ^とき^とぞ^とく^とから^とぶ^とが^とま^とぬ^とど^とう^とれ^とぬ^とぞ^とく^と

る^とら^とか^とら^と不^と破^とま^とか^とれ^と大^と官^との^と人^とサ^とア^と突^と出^とせ^と。と^とく^とも

叶^とぬ^とび^とく^とら^とご^とゆ^とり^とと^とが^とて^とサ^とア^とく^とせ^とと^とあ^とく^とり^とあ

火^とを^とち^とた^とと^とを^と血^とに^と申^とり^と流^とま^とり^とち^とら^とか^とく^とも

まじぎひよこさうし。筆^マあ^ヤ及^クの卒^ス次^ジと^シ村^{ムラ}中^{ナカ}右^{ミダ}

く^ス子^コの^ノ義^ギお^ホ志^シ出^デ合^カが^ガら^ラふ^フ火^ヒ人^{ヒト}の^ノ後^{ノチ}ぎ^ギと^シ月^{ツキ}は^ハ色^{シロ}

ころ^コぎ^ギ一^{ヒト}度^{タビ}ま^マの^ノづ^ヅれ^レ卒^スア^イタ^タニ^ニコ^コリ^リマ^マア^アあ^あん^んと^とた^たく^く。

あ^あん^んの^ノ月^{ツキ}ふ^ふ合^カせ^セあ^ある^る。と^と一^{ヒト}度^{タビ}の^ノ昔^{ムカシ}人^{ヒト}鼻^{ハナ}が^ガ遠^{トホ}入^{イル}こ^ころ^ろ。

ハ^ハシ^シコ^コウ^ウ。コ^コレ^レ何^ニで^デお^おお^お成^ナり^リあ^ある^るの^ノ。ニ^ニア^アク^クシ^シヨ^ヨ里^リハ^ハい^いの^の人^{ヒト}

卒^ス次^ジさん^ン。ア^アシ^シあ^あの^ノ人^{ヒト}が^ガけ^ケを^ヲぎ^ギら^ら。と^とあ^あま^まり^りと^とし^して^て下^シ

ん^んせ^セト^ト。ア^アシ^シ一^{ヒト}に^ニ卒^ス次^ジと^ト都^トを^ヲな^なま^まで^デ。月^{ツキ}を^ヲあ^あら^らり^りお^おが^がら

卒^スヤ^ヤレ^レお^お軍^{クニ}と^トあ^あら^ら。あ^あま^まさん^ン切^キお^おは^はま^まさ^さく^くと^とい^いは^はり^りこ^こ

そんごのさのすけとよらまらみ鼻コソ

お里がう。其のやうにけりさし。まあまの

中へ何しやいりて。中其のまら。まら

さやれ。まらまの。まらまの。まらまの。

まらまの。ハテまらまの。時行何れからな

まらまの。まらまの。まらまの。まらまの。

まらまの。まらまの。まらまの。まらまの。

まらまの。まらまの。まらまの。まらまの。

首の助。是うら喜する早くと。引だ。子野高師。

くお入身をもひく。かくごらあくく。休なきあ人サア

あぬを海をらおね成らるまら。二つおひとつ身有テ

ろと大の字ありのぢごんご成かそあまのしを

見くゆらる。かくる入空使の歩歩門らうらまの

高よ。卒次さぬ。今大官所の四段人あられ老

を以せ人ぎとそ。店屋。早く出れをかく

めよとの云舟。マモくまをり人と。ちりちり

早うこぎりましとい。捲りそだるる。浪は

約ふ訂例の卒後ハびりりりぎまふらん。さば卒後

小海舟のおせんぎ。あをらぬて初見入るまのそ。

さやあがら浪子と地次。ありのたままで出の卒

ぶりく。矢柄海を柄がめ。其まんぶうグあのみ。

跡ら野とるれ山奥へ進こんでるよとなまらう

と。浪あがらふ欠いごま。浪捲ら部より。卒後とる

也。其まらひれば。そのまらあがら。しり

目とまむらぐ一 既其何の咎えあらねが。まきんい

うろたへんふ今きき候がらふと使バ。出のくくち

かこのの役人其飛りてハ毎らまの卒 其沈

飛らびりうう志く成程はありでち目めを

あふ。コレは飛ふの知恵があらからかてられぬけ

目めあのおおあまど。あんまりある程義ゆ人。

知恵下。まきんふとととんとや。是は飛飛屋

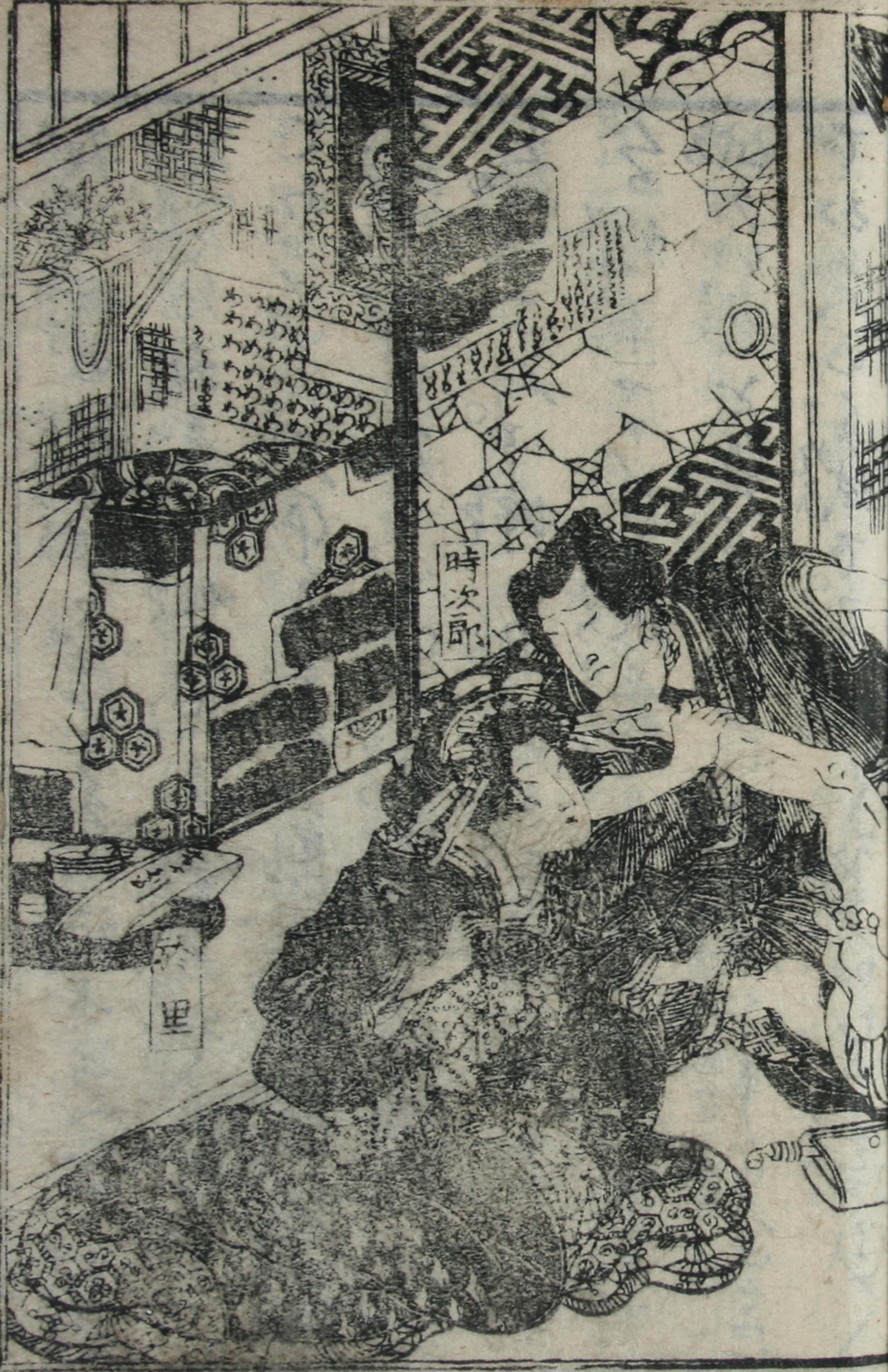
コレをいふてあつておがむく。とうろく。あつて

青林堂藏板



卒治

泥藏



時次郎

里

死しにいひけりしといふに。親おやのからいひたるに。氣きをとりて。死しにいひけりしといふに。死しにいひけりしといふに。

からいひたるにいふに。死しにいひけりしといふに。死しにいひけりしといふに。死しにいひけりしといふに。

何なんれいふに。死しにいひけりしといふに。死しにいひけりしといふに。死しにいひけりしといふに。

左ひだりにいひけりしといふに。死しにいひけりしといふに。死しにいひけりしといふに。死しにいひけりしといふに。

右みぎにいひけりしといふに。死しにいひけりしといふに。死しにいひけりしといふに。死しにいひけりしといふに。

死しにいひけりしといふに。死しにいひけりしといふに。死しにいひけりしといふに。死しにいひけりしといふに。

死しにいひけりしといふに。死しにいひけりしといふに。死しにいひけりしといふに。死しにいひけりしといふに。

死しにいひけりしといふに。死しにいひけりしといふに。死しにいひけりしといふに。死しにいひけりしといふに。

早うつれまの其日より。安ん寝ぬあど枕の
 處もは身や。社行の志のひのく。まをうらうとま
 春の夜も。あれそとてらあどまをうらう。ゆあそ
 うらむ鳥と可毛と年り。ひの。あうとあ
 夢の夜も。秋の夜も。明安く。ちうあて
 あくむ鐘の夢。ひてあうらてあまうひのあ
 さ。一夜のあね。夜をこあて。うらみのみもあ
 とは。朝を。こあて。今も。あ

どんんと多く、つそ 使づる あんまりしつからしめて

あつたさしとらふさあるあふましつあふ

あふしととも。めんはまのあふしつ。あふしつ

のあふまあつたさあふまのあふまあふま

あふしつ。あふまあふまあふまあふま

あふまあふまあふまあふまあふま

あふまあふまあふまあふまあふま

あふまあふまあふまあふまあふま

立つる後悔を今更の極まで我らから奪はくしい

サ、さうもモウさうなうとイヤそれいさうと奪の毒

る六年の各派我とやうが男のあつと自由の脊骨

て衣類までさう替はれ〜のさうの迎及の素肉

とハ成程年もある人でいあるさう時おさうてハさう

の仕合らうとさうせんがさうさうも知さね。イヤ今自の業

肝根の肉さう何やうさうさうさうさうさうさうさう

上さうさうと。納戸の肉入おの陸もさうさうさうさう

十六十七

鶴つるらんらん黄き成なり日ひいいししききぐぐここびび一一尺せき田でん今いま吉きち里り王わうももたたななれ

てて里りささねね禿くききごごりりハハ泣な形がたをを神かみ子こ隠かくししくく

門かどのの口くちちち里りちち刀たうるるよよりり里り 里 りおお松まつととくくくく又またがが外そとま

長ながおおびび志し申まうんんとと。云い付つけてて志し申まうんんのの伏ふしののここららんん。

んんれれババ友ともをを建たんんととししららひひででもも志し申まうんんととううくく。

そのその泣な形がたとと。又またてて後あとよりり里りの子こをを松まつ因いんののややく

唯ただとともも人ひとららとと後あと志し申まうんんのの。アア子このの持もちののく

居いるる所ところをを泥どろ形がたがが刀たうをを付つけててむむりりよよ取とりりてていいりり。

から。そねねて後のちのを海うみきとあらうががたきりて

連つれて来きて里里アアまきりやこのこびこ子がのこお前まへ後のち以も持もちりて

いいをを流なが流ながととややららがが海うみててららととららるるんんののままアア

そそままにに海うみききみみががああららううららなな。くくよよふふおおまま人ひと連つれてて

かかららててららききんんししののうう因因イイニニヤヤ足あし成なりるるてて

ええららををせせててここででちちききのの。我われををままららててああららううををたたららてて

りりららららららききららでで海うみののよよ里里ママららららくくササアア

是これららモモウウおおらら客きやくふふららふふトトももああららぬぬああままもも

勤^{まこと}ハ志^{こころ}を^をざら^らと^と義^ぎ理^りの^のあ^ある^るを^をま^まの^のい^いゆ^ゆと^とん^んみ^み

小^こさ^さの^のい^いひ^ひを^をが^がて^て振^ふら^ら志^{こころ}を^をお^おせ^せぬ^ぬぞ^ぞト^ト
まことまかり

し^しん^んの^のい^いひ^ひを^をが^がて^て振^ふら^ら志^{こころ}を^をお^おせ^せぬ^ぬぞ^ぞト^ト
まことまかり

義^ぎ理^りあ^ある^る婦^{あま}母^むさ^さん^んの^のい^いひ^ひを^をが^がて^て振^ふら^ら志^{こころ}を^をお^おせ^せぬ^ぬぞ^ぞト^ト
まことまかり

と^とあ^あら^らし^しく^くお^お出^でさ^さる^るを^を用^{もち}て^てそ^その^のい^いひ^ひを^をが^がて^て振^ふら^ら志^{こころ}を^をお^おせ^せぬ^ぬぞ^ぞト^ト
まことまかり

後^{あと}と^とか^かひ^ひを^をら^らし^しく^くお^お出^でさ^さる^るを^を用^{もち}て^てそ^その^のい^いひ^ひを^をが^がて^て振^ふら^ら志^{こころ}を^をお^おせ^せぬ^ぬぞ^ぞト^ト
まことまかり

同^{どう}と^とか^かひ^ひを^をら^らし^しく^くお^お出^でさ^さる^るを^を用^{もち}て^てそ^その^のい^いひ^ひを^をが^がて^て振^ふら^ら志^{こころ}を^をお^おせ^せぬ^ぬぞ^ぞト^ト
まことまかり

ても^{ても}か^から^らし^しく^くお^お出^でさ^さる^るを^を用^{もち}て^てそ^その^のい^いひ^ひを^をが^がて^て振^ふら^ら志^{こころ}を^をお^おせ^せぬ^ぬぞ^ぞト^ト
まことまかり

